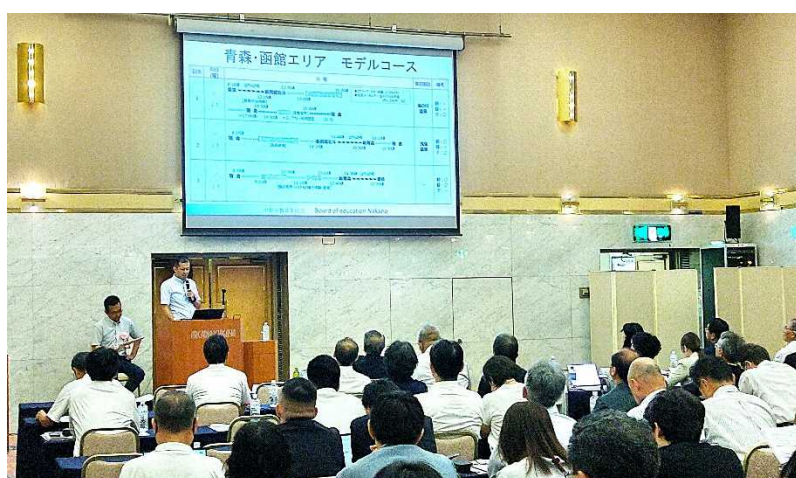


第43回全国修学旅行研究大会

報告書

『学びの集大成を図る修学旅行』

— 修学旅行の灯は消さない —



【実践事例発表】
「公的支援を活かし、
生徒の意見を反映した修学旅行」



【講演】
「修学旅行の意義」

2026（令和8）年7月24日（金）

アルカディア市ヶ谷 私学会館 3階「富士（西）」

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

目 次

主催者挨拶	1
-------	---

岩瀬 正司 公益財団法人 全国修学旅行研究協会 理事長

来賓挨拶	3
------	---

千々岩 良英 氏 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課長

根来 恭子 氏 観光庁 参事官（旅行振興）

賛助会員代表挨拶

石原 栄二 氏 近畿日本ツーリスト株式会社 執行役員
エデュケーショナル・ビジネス事業部長

■ 全修協報告（※司会者 紙上報告）	8
--------------------	---

『全国修学旅行実施状況調査』概要 —2024（令和6）年度 全国公私立高等学校・中学校修学旅行等実施状況調査—

木村 久美子 公益財団法人 全国修学旅行研究協会 大阪事務局長

■ 実践事例発表	10
----------	----

『公的支援を活かし、生徒の意見を反映した修学旅行—中野区生徒が考える修学旅行—』

○発表者

竹之内 勝 氏 中野区立中野中学校 校長

神藤 陽平 氏 中野区立南中野中学校 校長

■ 講演	24
------	----

『修学旅行の意義』

○講演者

長田 徹 氏 東北福祉大学 教育学部 教育学科 教授
文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官

【主催者挨拶】



公益財団法人 全国修学旅行研究協会

理事長 岩瀬 正司

皆様、こんにちは。

只今ご紹介いただきました、公益財団法人 全国修学旅行研究協会の理事長 岩瀬正司でございます。

本日は公私ともご多用の中、また炎暑の中、多数の皆様方に、第43回全国修学旅行研究大会にご参加いただいております。誠にありがとうございます。

さらに、ご来賓の

文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長

千々岩 良英（ちぢいわ りょうえい）様

観光庁 参事官 旅行振興

根来 恭子（ねごろ きょうこ）様

そして私ども協会の事業に、ご理解・支援して下さっている賛助会員の皆様方を代表しまして

近畿日本ツーリスト株式会社 執行役員

石原 栄二（いしはら えいじ）様

には、ご多用にもかかわらず、直接この会場においでいただきお言葉をいただけることに、厚く御礼申し上げます。

本日の第43回全国修学旅行研究大会、この会場には120名以上の方が、オンラインでも60余名の方が参加しています。主催者として、このように盛大な大会が開催できますことは大きな喜びであり、同時に私ども協会の活動を支えてくださっている多くの皆様方に深く感謝申し上げます。

さて、当協会は修学旅行の調査・研究を主要事業としておりますが、現在の全国の公立高等学校・中学校の実施状況をほぼ悉皆調査した結果を、本年も「全修協報告」として冒頭に紙上発表を行います。

実践事例発表は東京都の中野区立中学校の校長会です。全9校の校長が一丸となって教育委員会とも

連携しながら、「中野区子どもの権利に関する条例」や「修学旅行費の公的支援」を背景として熟議を重ね、これからの修学旅行の在り方を実践しています。

講演は、「特別活動」研究の第一人者であり文部科学省の教科調査官もお務めの、東北福祉大学の長田教授です。修学旅行の意義や課題を中心として、現在検討されている次期学習指導要領にも触れていただきます。

私たちの協会は創立以来修学旅行の「教育性の充実」「安全性の確保」「経済性の適正化」の3本柱を基本理念として活動していますが、コロナ禍以降の社会情勢の変化により、修学旅行の意義や在り方が根源的に問われています。

「学びの集大成を図る修学旅行」を主題とした本研究大会ですが、副題に「修学旅行の灯は消さない」とした意味がここにあります。日本の学校教育の白眉でもあり、日本人の旅の原点とも言える修学旅行、私たちはそれを守り続けます。

短い時間ではありますが、ご参会の皆様方と共に充実した有意義な研究大会にしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



【来賓挨拶】



文部科学省 初等中等教育局

児童生徒課長 千々岩 良英 様

本日、第43回全国修学旅行研究大会が開催されるにあたり、御挨拶申し上げます。

本大会の主催者である公益財団法人全国修学旅行研究協会におかれましては、長きにわたって修学旅行に関する調査、研究、情報提供など様々な活動を通じて、有意義な修学旅行の実現に向け取り組んでいただいておりますことに、深く敬意を表します。

また、本日御参加の皆様におかれましても、日頃より、修学旅行の充実に御尽力いただくとともに、文部科学行政へ御理解をいただいておりますことを心から感謝申し上げます。

近年、物価高騰、関係事業者の人手不足、行先の混雑など、修学旅行の実施にかかる諸課題が顕在化し、各学校において、従前の修学旅行の内容そのままに実施することが難しくなりつつあることと考えております。

このような背景を踏まえつつ、児童生徒にとって多くの学びがある修学旅行を実現するため、各学校において「方面の変更」「実施時期の見直し」「活動内容の見直し」などがなされ、創意工夫あふれる修学旅行が引き続き実施されているものと認識しています。

文部科学省としても、修学旅行の円滑な計画や実施に資するよう、観光庁や国土交通省とも連携させていただき、令和6年12月、都道府県教育委員会等に対し、実施時期について柔軟な検討をお願いしたいという趣旨の通知を発出させていただきました。

その際、通知と併せて、各都道府県の時期・曜日ごとの貸切バスや宿泊事業者の繁忙・閑散の情報を資料にまとめ、提供させていただいたところです。

本日御参加いただいている方の中にも、通知の内容を踏まえた実施時期の見直しを御検討いただいている学校関係者の方や、通知の趣旨を踏まえた学校への御提案に御協力いただいている旅行業者の方・関係事業者の方がいらっしゃるかと存じますが、この場をお借りして改めて、地域の実情等に鑑み、柔軟な実施時期の検討をいただきますよう、お願い申し上げます。

また、学校における校外活動につきまして、本年3月に沖縄県辺野古沖で大変痛ましい事故が発生しました。これを受け、文部科学省としましては、4月7日に「学校における校外活動の安全確保の徹底等について（通知）」を発出させていただき、その中で、今後の各学校における校外活動の実施に当たり、改めて安全の確保のために配慮いただきたい点や教育活動として適切に計画・実施していただくに当たって留意いただきたい点を通知しております。

各学校におかれましては、通知に記載の点について対応の徹底をお願いいたします。各旅行業者におかれましても、観光庁を通じて通知を発出しておりますので、改めて対応の徹底と、学校等に対して必要な情報提供や助言をお願いいたします。文部科学省としましても、校外活動の安全確保の徹底等に向けて引き続きしっかりと取り組んでまいります。

そして、先ほど申し上げました通り、従前のままの形での修学旅行の実施が難しくなりつつある一方で、修学旅行は子供たちにとって、かけがえのない貴重な思い出となる有意義な教育活動であり、その重要性は揺らぎないものであると考えております。

文部科学省としましても、子供たちの学びの充実に資するべく、今後も必要な情報提供などを行ってまいります。

本日の、本研究大会の開催が、例年同様に、修学旅行の一層の充実、発展につながっていく、大変貴重な会となることを祈念するとともに、本日御参会の皆様の一層の御健勝、御活躍を祈念し、御挨拶とさせていただきます。



【来賓挨拶】



国土交通省 観光庁

参事官（旅行振興） 根来 恭子 様

本日、全国修学旅行研究大会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

また、本大会の開催にご尽力されました主催者の皆様をはじめ、本日までご出席の皆様方におかれましては、国内及び海外への修学旅行を通して、観光立国の実現にご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本年3月に閣議決定した2030年までの「第5次観光立国推進基本計画」では、・「国内交流・アウトバウンド拡大」を施策の3本柱の一つとして掲げ、海外教育旅行を通じた若者の国際交流の促進や地方空港を活用した相互交流の促進、旅券手数料の引下げ等、アウトバウンドの拡大に資する取組を通じ、次世代をけん引する若者をはじめ国民の国際感覚の向上や、国際相互理解の増進による諸外国との友好関係深化につなげることをしています。

観光庁では、海外教育旅行の質の向上や裾野拡大に向けて、海外教育旅行の導入等に意欲のある学校と旅行業者とが連携した優良なプログラムの開発を行うためのご支援を行っており、本年度も多くの学校からご応募いただきました。先生方におかれましては、夏休み前の大変お忙しい時期にご応募に向けた調整等を行っていただき、誠にありがとうございました。

本年3月、修学旅行中に生徒等が死傷する大変痛ましい事故が発生いたしました。ご関係の皆様に深く哀悼の意を表するとともに、旅行業を所管する観光庁として、全国の旅行会社に対し、改めて旅行中の安全確保のための取組を徹底するとともに、旅行者への必要な情報提供や助言を実施するよう周知徹底を図ったところです。

引き続き、文部科学省をはじめ関係省庁や関係機関と連携しながら、安全・安心な修学旅行の実施に向けて取り組んでまいります。本日も集まりの皆様方の益々のご活躍、ご健勝を祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【賛助会員代表挨拶】



近畿日本ツーリスト株式会社 執行役員
エデュケーショナル・ビジネス事業部長 石原 栄二 様

皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、近畿日本ツーリストの石原でございます。

本日は「第43回全国修学旅行研究大会」が盛大に開催されますこと、協会を支援させていただいております賛助会員を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。

ご参加いただいている全国の教育現場の先生方、自治体、教育行政、および教育旅行に携わる各社の皆様方には、日頃より弊社の教育旅行担当者に多大なるご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。改めまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、弊社の教育旅行事業の近況について申し上げます。

国内修学旅行における2025年の実績は、取扱人員で2024年比99.1%となりました。取扱校数はほぼ横ばいであることから、少子化による生徒数減少の影響が顕著に表れており、2026年はさらに減少する傾向にあります。

一方で、海外修学旅行の2025年実績は、取扱人員が2024年比131.7%と大きく伸びました。特に、私立中高が国内から海外へと行き先を移行する傾向が目立ちました。ただし、2026年については、中東情勢による燃油サーチャージの高騰や円安の影響から、海外から国内へ振り替える学校も出ており、2025年の取扱人員には届かない見通しです。

毎年この場で教育旅行の課題について触れさせていただいておりますが、本日は旅行会社の視点から、より一歩踏み込んだ課題をお話しさせていただきます。

現在、一部の自治体では修学旅行の無償化や助成が行われており、行き先も定番の関西方面から、北海道や九州など多様な広がりを見せています。その一方で、費用の公費負担や上限額の見直しが進まない自

治体もあり、地域間での「修学旅行格差」が広がりつつあります。長年この事業に携わる身として、修学旅行の意義について、今こそ学校現場と行政、そして旅行会社とが深く意見を交わすべき時期に来ているのではないかと考えております。

ここで、弊社の最近の取り組みを3点ご紹介させていただきます。

1つ目は、この4月に開設いたしました「グローバル教育センター」です。

本センターは、海外修学旅行や短期研修に加え、中長期の留学、さらには海外大学への進学までを一貫して支援する専門組織です。「世界を学び、未来を描こう」というコンセプトのもと、グローバルキャリアへの関心を高め、主体的に未来を切り拓く人材を育成します。学校の教育方針や生徒の成長段階に合わせ、学びの機会を学校とともに設計し、伴走してまいります。

2つ目は、TBS ホールディングスと共同開発した体験型探究授業プログラム「My 世界遺産探究」です。「100年後の世界に残したいものは何か」という問いに対し、生徒自身が答えを導き出し、最終的に映像作品として表現するプログラムです。本教材の大きな特徴は3点ございます。

1つ目は探究ステップに基づく体験学習です。生徒の内発的な問いを大切にし、修学旅行という実体験を通じた学びの深化を図ります。

2つ目はTBS テレビ「世界遺産」チームによる教材開発です。番組制作のプロセスである「企画・取材・編集・放送」を、探究学習のステップに重ね合わせ、プロの知見と映像を活用した質の高い学びを提供します。

3つ目は映像制作によるアウトプットです。テレビ局の手法を学びながら、伝えるための表現力やプレゼンテーション力を養います。

最後の取り組みですが、オンライン診療を活用した、生徒の安心・安全を守る取り組みです。

修学旅行中の急な体調不良に対し、スマートフォン等を通じて医師の診療をリアルタイムで受けられる仕組みを導入しました。夜間・休日でも対応可能なため、医療機関を探す負担を軽減し、旅行行程への影響を最小限に抑えます。処方箋についても、オンラインでの服薬指導を経て、宿泊先や近隣の薬局で薬を受け取ることが可能です。また、保護者・学校・医師の「三者間通話」により、離れた場所にいる保護者の不安解消と、先生方の負担軽減を同時に実現いたします。

昨今、様々な事件や事故が懸念されておりますが、これからも安全・安心をしっかりと担保した学校行事を、先生方とともに創り上げていきたいと考えております。

結びになりますが、本研究大会のご盛会、ならびに公益財団法人全国修学旅行研究協会様のますますのご発展を祈念いたします。あわせて、ご参会の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

【全修協報告】

「全国修学旅行実施状況調査」 概要

—2024（令和6）年度 全国公立高等学校・中学校修学旅行等実施状況調査—



公益財団法人 全国修学旅行研究協会

大阪事務局長 木村 久美子

本日の全修協報告「全国修学旅行実施状況調査概要—2024（令和6）年度全国公立高等学・中学校修学旅行等実施状況調査報告—」ですが、お時間の都合もあり、お手元にお配りさせていただきましたダイジェストについて概略を司会進行の私、木村よりご説明させていただきます。

詳細につきましては、当協会HPに全ページ掲載してございますので、お時間のある時にご閲覧いただければ幸いです。

令和6年度の修学旅行は、コロナの収束が見え始めた令和4年度に旅行方面を決定したことから、国内修学旅行においては、従来の旅行方面での修学旅行の実施に戻す学校が多く、凡そコロナ前の実施状況に酷似した形になりました。

コロナバブルで一時増加した甲信越、東海、北陸、四国などへの修学旅行は、ほぼコロナ前の構成比率に戻りました。

高校は沖縄への修学旅行が戻りきっていないことと、海外修学旅行が再開の途中にあることから、近畿方面への修学旅行が増加したことが従来との違いです。

中学校は、近畿方面（京都・奈良）がほぼ半数を占めるという典型的なバランスに戻っています。

海外修学旅行も順調に回復に向かっています。しかし、原油価格の高騰をはじめ様々な物の値上がりで、もうしばらく再開を控えている学校が多いのも事実です。

全員参加が原則の修学旅行については世界情勢の様子を見ながらの回復となろうかと思いますが、希望者参加による海外研修旅行は、高額の実施ではありますが、すでに多くの学校で実施されており、コロナ前を上回っているところもあります。

国際理解教育の流れは、更に加速するものと思われます。

これからの調査になりますが、おそらくこの状態は、令和7年度も継続されるものと思われます。

こうして日本全国で修学旅行は実施されておりますが、その実施には様々な課題を抱えています。「物価の高騰」「人手不足」「オーバーツーリズム」そして「働き方改革」などが従来の修学旅行の目的を果たすことができない状況を生み出しています。

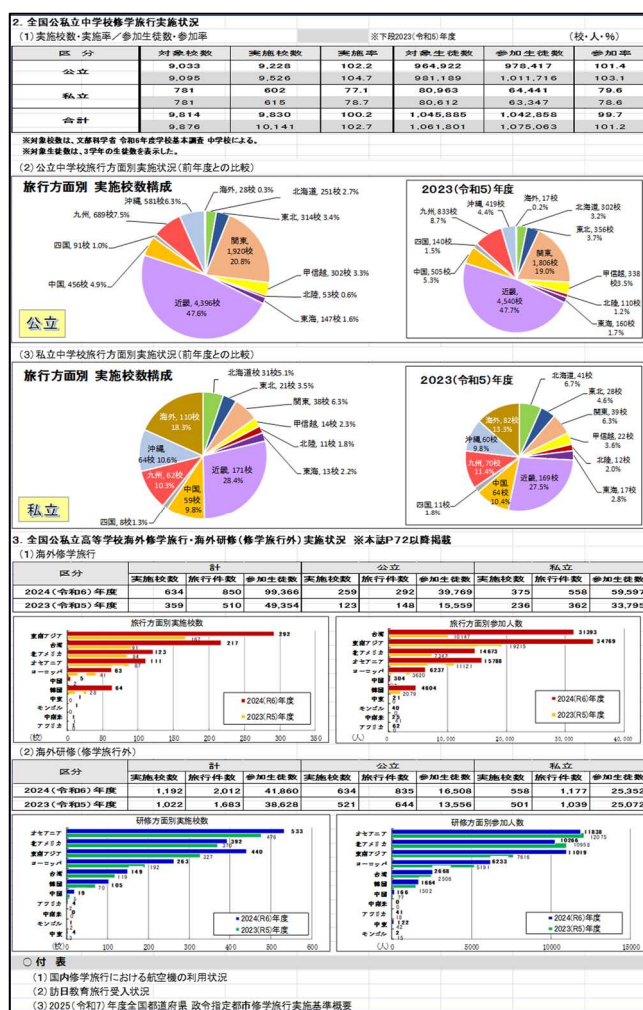
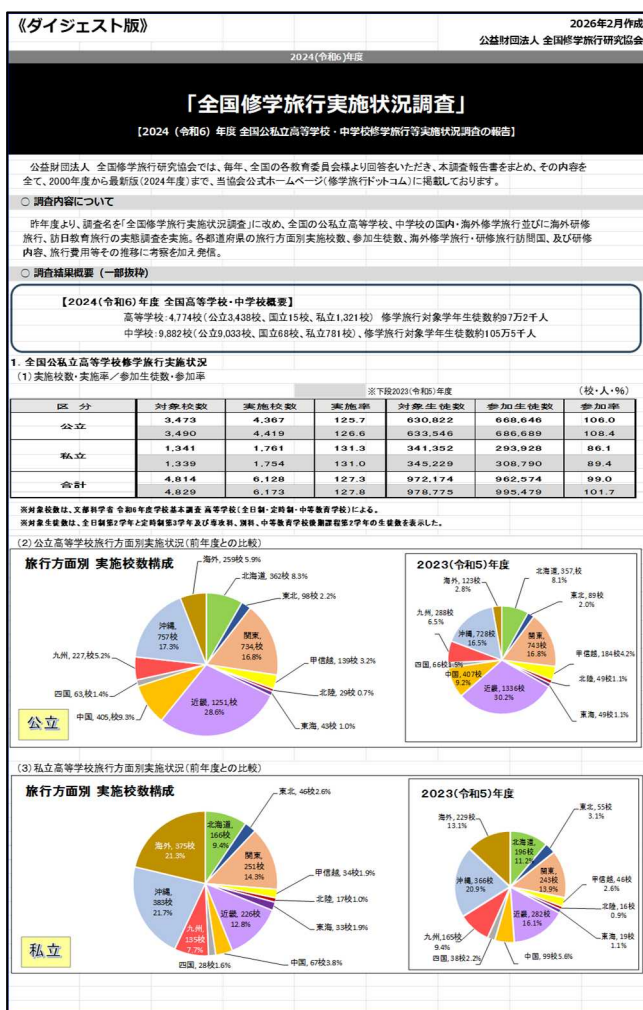
今、学校現場では、修学旅行の在り方について議論されることも多く、新しい修学旅行のカタチの模索が始まっています。

令和8年度以降、修学旅行のカタチは取り巻く環境に適応しながら様々な変容を見ることがなるかもしれません。しかしその変容はより良い修学旅行の在り方への変容であると確信しています。

本日このあとご発表いただきます、東京都中野区の中学校長会の修学旅行特別プロジェクトについても、その取組みの一つであると思います。

また、ご講演いただく長田先生のお話もそういった取組みを後押ししていただけるものと大変楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

当協会もそういった動きを注視し、学校にとってより有益な情報を発信してまいりたいと存じます。以上、全修協報告とさせていただきます。ありがとうございました。



【実践事例発表】

「公的支援を活かし、 生徒の意見を反映した修学旅行」

第43回 全国修学旅行研究大会 実践事例発表 「中野区生徒が考える修学旅行」

中野区立南中野中学校長
神藤 陽平

中野区立中野中学校

校長 竹之内 勝 氏

中野区立南中野中学校

校長 神藤 陽平 氏

《発表者紹介》

竹之内 勝（たけのうち まさる）氏

東京都 中野区立中野中学校 校長

東京都足立区、練馬区の中学校保健体育科教員として教鞭をとる。東京都長期社会体験研修生、稲城市教育委員会指導主事、中野区立鷺宮小学校副校長、中野区教育委員会統括指導主事、2校の中野区立中学校長を経て、現在に至る。

教員時代は、京都・奈良方面の修学旅行を企画・運営した。現在は、生徒の意見を反映した学校経営を進めるとともに、校長会の推進役として5年間にわたり、「生徒が行き先を考える修学旅行」の実現に向けた準備・調整を行っている。



神藤 陽平（しんどう ようへい）氏

東京都 中野区立南中野中学校 校長

東京都文京区、八丈町、練馬区の中学校社会科教員として教鞭をとる。練馬区立中学校2校で副校長として勤務し、令和6年度より中野区立南中野中学校校長となり、現在に至る。

教員時代は、京都・奈良、広島方面などの修学旅行の企画・運営を担当した。現在は「こどもを主体とした学校教育」に力を入れる中野区にて、「生徒が行き先を考える修学旅行」を発展させるため、学校・教育委員会・関係機関の調整などを行っている。





【 神藤 】

それではこれより、「中野区生徒が考える修学旅行」についての発表を行います。私は中野区立南中野中学校長、神藤陽平と申します。今回は、令和7年度全国修学旅行研究協会現地研修会に参加したことをきっかけとして発表する機会をいただきました。少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の発表内容についてご説明いたします。「中野区生徒が考える修学旅行」は、令和6年度から始まった「中野区子どもを主体とした学校教育」の一環として行われているものです。

そのため、最初に「中野区子どもを主体とした学校教育」について、そしてその大きな柱である「中野区生徒が考える修学旅行」について、経緯と概要を説明いたします。

次に、生徒が考える修学旅行の実践事例について、本校の取り組みを紹介いたします。最後に、成果と課題、そして次年度に向けた改善点を報告いたします。

I.中野区子どもを主体とした学校教育

それでは早速発表に入らせていただきます。最初に「中野区子どもを主体とした学校教育」についてです。これは中野区長、中野区教育長の強い思いのもと実現した施策となります。目的をご覧ください。生徒が安心して自分の意見を表明できる学校づくりを推進するために、また、主体性、自律性、思考力、判断力、表現力の育成を図るため令和6年度より取り組みが始まりました。具体的な取り組みの柱は2つです。

中野区子どもを主体とした学校教育

目的

(1) 子どもが表明した意見や考え、思いを尊重し、安心して自分の意見を表明できる学校づくりを推進する。
(2) 子どもが自己決定する過程を通し、主体性と自律性、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

1つ目の柱は、「子どもの意見を反映させた学校教育」です。全ての区立小学校に20万円、区立中学校に30万円配当し、その学校の子どもに用途を考えさせる取り組みです。各学校では、子どもへアンケートを取ったり、また選出された代表生徒による話し合いを行ったりして用途を決定しました。

中野区子どもを主体とした学校教育

2. 内容

(1) 子どもの意見を反映させた教育活動（R6年度～）
小学校20万円 中学校30万円
子どもが用途について企画・提案する。

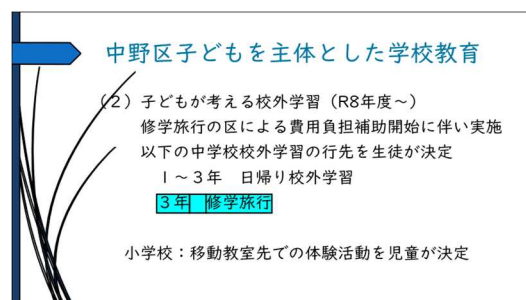
学区小学生・地域住民を招待するイベント
スポーツ選手・YouTuberなどの講演会
談話用のベンチ・行事用のテントの購入 など

ある中学校では、学区小学校の児童、また地域住民を招待する祝祭のようなイベントをこの予算を使って実施しています。また、ある学校では、キャリア教育の一環として、スポーツ選手やYouTuberの講演会などを開いております。また、ある中学校では、子どもがよりよい環境で学校生活を送るための備品を購入しております。

本校では、各学年ごとに10万円ずつ割り振り、立候補した実行委員によってその用途を決定しています。1年生、2年生では、高校の文化祭のようなステージ発表をしたいということで、学年でステージ発

表イベントを実施しました。また、3年生では学校全員が同じキーホルダーを持つということで、連帯感や学校に対する思いを強めたいということで、「南中キーホルダー」というものを作成いたしました。

2つ目の柱は「子どもが考える校外学習」です。今年度より中野区立学校の教育に関する費用負担補助金交付がスタートし、教材費と校外学習費の校費化が進んだことがきっかけです。子どもを主体とした学校教育を一層推進していくために、中学校全学年の日帰り校外学習と3年生の修学旅行の行き先を生徒が決定することになりました。



小学校は行き先は決められませんが、移動教室で実施される体験活動等を児童が選択することとなっています。区長、教育長によるプレス発表が放送された動画がありますのでご覧ください。



<動画>

中野区は、来年度から区立小中学校の修学旅行費などを無償化する方針を示しました。

(酒井区長)「教育無償化を求める声というのは、ずっとこの数年ありました。今回、中野区としてやるべきところは補助するということで踏み切ったところであります。」

中野区の酒井区長が23日の定例会見で明らかにしたもので、補助の対象となるのは、現在、学校が保護者から徴収している修学旅行費や校外活動費と、ドリルや理科の実験材料などの教材費です。区では現在、修学旅行費を平均6万9,000円程度、教材費を年間1万円から4万円徴収していますが、これらを区が負担する方針です。

(酒井区長)「保護者から教材や修学旅行等に関する費用を徴収しないことで、保護者の費用負担を補助し、安心して活動に参加できる環境を作ってまいります。」また、来年度からは、区立の小中学校の体験活動や修学旅行先を生徒が自ら選ぶ仕組みを導入し、生徒の意見表明の場を増やす考えです。

また、YouTubeの中野区公式チャンネルでは、この修学旅行の取り組みについて、もう少し教育長の方から詳しく説明しておりますので、こちらの動画も併せてご覧ください。

<動画>

(田代教育長)「今現在、中野区は9校あるんですけども、大体の修学旅行が京都、奈良、関西方面に教員が場所を決めて、中の具体的なコースなどは子どもたちが班で話し合ったりして決めているという状況です。」「今、新しく考えているのは、場所も京都、奈良を限定するのではなく、例えば大阪、あるいは広島、それから長崎なんかも平和教育にとってもいい修学旅行の場所であるし、あるいは金沢や東北とか、そういうところも予算的なものもありますが、限られた予算の中で可能な学習効果のある場所を設定して子どもたちに選ばせたいなと。」「現在も保護者から徴収していますけれども、6万9,000円の中



で大体の修学旅行ができていますので、あと余分に持っていくのは自分のお小遣いぐらいだと思いますので、それ以外、子どもたちが満足できるような費用は計上していきたいと思っております。」

生徒が考える修学旅行が導入された経緯についてご理解いただけましたでしょうか。

Ⅱ.中野区生徒が考える修学旅行

中野区生徒が考える修学旅行			
1 実施年度	令和10年度（選定：令和8年度）		
2 対象	現1学年生徒		
3 内容	各中学校で5つの候補地より1つ選定		

それでは次に「中野区生徒が考える修学旅行」の内容について説明をさせていただきたいと思います。

実施年度は、令和10年度実施の修学旅行からです。現在の中学1年生が、3年生になった時に行く修学旅行ですので、現1年生が今年度行き先を選定することとなります。各中学校5つの候補地より一つ選定することとなりました。

5つの候補地は、(1) 青森・函館 (2) 北陸 (3) 奈良・京都 (4) 広島・京都 (5) 九州です。歴史的文化遺産が密集する京都、奈良は残しつつ、混雑が少なく美しい自然環境や文化的価値が高い見学地が集まっている場所を候補地として選定いたしました。

候補地の選定は中野区修学旅行選定委員会が行いました。その中には中学校長2名が委員として入り、学校現場の立場から積極的に意見を発信いたしました。

私たち中野区中学校長会は、全国修学旅行研究協会の現地研修会や中野区中学校校長会夏期宿泊研修などを通して、奈良京都に代わる修学旅行先について研修を重ねてまいりました。その研修の成果を中野区修学旅行検討委員会に提案し、候補地選定に活かすことができました。

次年度以降についても、この施策が続く可能性が非常に高いため、学びが多い新たな候補地を提案できるよう、中野区校長会として研修を重ねてまいりたいと思っております。

中野区中学校長会による研修			
全修協現地研修会への参加			
R 4	北海道	R 5	北海道・東北
R 6	新潟・東北	R 7	南九州
2 中野区中学校長会夏季宿泊研修会			
R 6	北陸	R 7	佐渡
修学旅行検討委員会への提案			

次に選定に関わるスケジュールです。令和7年11月に中学校長会で5つの候補地についてアンケート調査及び方向性の確認を行いました。そして、先ほど説明した修学旅行検討委員会を令和8年2月に開き、旅行会社2社よりコース選定に関わる情報提供をいただいた後、委員で熟議を重ね、5つの候補地を決定いたしました。

中野区生徒が考える修学旅行			
7 コース選定スケジュール①			
日程	対象	内容	備考
11月	校長会	候補地調査・検討	検討委員会へ要望
2月	修学旅行検討委員会	候補地調査・検討	JTB・近ツリからの情報提供
3月	区指導室	プレゼン資料作成	全中学校へ共有

中野区生徒が考える修学旅行			
7 コース選定スケジュール②			
日程	対象	内容	備考
4月	各中学校	生徒・保護者への趣旨説明	
		生徒へのプレゼン	
		生徒による調査	
		話し合い活動	
		投票	行先の決定
5月		旅行会社プロポーザル	旅行会社の決定
※実施時期や実施方法は各校の実態に応じて検討			

3月に中野区教育委員会指導室指導主事が区内社会科教員と連携し、プレゼン資料を作成し、中学校へ共有いたしました。それを受けて、各中学校では、4月以降に各校の実態に合わせて、生徒、保護者への趣旨説明、生徒へのプレゼンテーション、生徒による調査や話し合い、そして投票とコース選定に向けたプロセスを進めてまいりました。

奈良京都以外のコースは、宿舎の確保、また長崎については飛行機の確保のため、5月中の決定を目指しました。若干、日程は異なりますが、全ての学校が4月中に投票を終え、5月中には旅行会社を決定し、宿舎や交通機関を確保することができました。

Ⅲ.南中野中学校実践事例

それでは、南中野中学校の生徒が修学旅行先を選ぶプロセスについて、実践事例を紹介させていただきます。

プレゼンテーションについては、体育館に1学年の生徒全員を集め、一人の担当教員が説明する方式をとりました。これは教員のプレゼンテーション力による差をなくすためです。また、スライド資料についても、公平性を担保するため、区が作成した資料をそのまま使用いたしました。ただし、視覚的に訴える資料が多かったため、生徒が感覚的に選択してしまうという不安がありました。そこで、様々な視点から比較をするための補完資料を2枚作成しました。それでは、実際のプレゼンテーションで使用したスライド資料の一部を紹介させていただきます。

南中野中学校実践事例

- 1 プレゼンテーション
 - (1) 体育館で学年生徒全員に対して実施
 - (2) 担当教員1名によるプレゼンの実施
→教員によるプレゼン力の差をなくす
 - (3) 区指導室作成スライド資料をベースに
様々な視点から比較するための
補完資料の作成
→短絡的・感覚的に選択をさせない

こちらは、中野区教育委員会指導室が作成したプレゼン資料となります。先ほど申したとおり、指導主事と中野区の社会科教員が作成したものです。全て紹介できませんので、青森函館についての資料のみを紹介させていただきます。

最初に日本地図を使用した資料で、東京都との位置関係や距離感を生徒にイメージしてもらいました。

提示したモデルコースは、旅行会社より情報提供をしていただいたものを提示しました。こちらのモデルコースでは、1日目4時間の新幹線移動の後、大沼周辺で自然体験学習、雨天時はものづくり体験を行います。宿舎に移動して夕食をとった後、函館山ロープウェイで夜景見学を行い、函館に宿泊いたします。

青森・函館エリア モデルコース					
日次	月日 (曜)	行程	宿泊施設	備考	
1	1 ()	8:18 東京 → 8:52 新青森北斗 12:35 新青森北斗 → 13:00 大沼 [昼食片岡温泉] 13:00 大沼 20:00 大沼 → 17:00 青 会 会 (温泉見学) HHH			

2日目は函館市内で班別行動を行い、午後2時過ぎに青森県へ新幹線移動し、浅虫温泉で宿泊します。

3日目は、バスで三内丸山遺跡、ねぶた資料館ワ・ラッセを見学し、新幹線で東京に戻るというプランです。

ただ、これはあくまでモデルコースであり、内容は各校の裁量で変更することができます。生徒にはこれはあくまでモデルコースなので、ここに出てくるもの全てを必ず見学できるわけではないということを繰り返し説明しています。

次に、その地域の特色ある観光資源を6枚のスライドにまとめました。全てのコース6枚にまとめてあります。写真だけではなく、基本状況や見どころなどについての説明も詳しく行いましたが、今回は資料のみの紹介とさせていただきます。

まず、青森函館方面で紹介したのは、青森市にある「ねぶた資料館ワ・ラッセ」。青森市にある縄文時代の大集落跡が発見された「三内丸山遺跡」。函館市の戊辰戦争で旧幕府軍が立て籠もった西洋式星型要塞の五稜郭。イカ釣りなどの体験ができ、新鮮な海産物、野菜、果物などが食べられる。函館朝市。広大な海と美しい函館市街地を一望できる函館山。そして函館の塩ラーメンや函館ご当地チェーン店ラッキョーピエロ、青森のりんごを使ったスイーツなど特産品なども紹介いたしました。

全ての候補地の説明が終わった後、中学1年生が比較しやすいよう、5つのコースを2枚の表にまとめました。1枚目は、候補地のイメージを広げるために候補地の特徴を言葉で表したマトリクスです。2枚目は、移動手段、行動形態、混雑度、メリット・デメリットなど、生徒が様々な視点で比較できるようにした表となります。

	青森・函館	北陸	奈良・京都	広島・京都	九州
一言でいうと	自然とロマン	伝統とアート	日本の原風景	平和と古都	異文化ミックス
メインの学び	北方の歴史と雄大な自然	加賀藩の歴史と現代芸術	飛鳥～平安時代の歴史	平和学習と伝統文化の対比	和華文化と近代化の歴史
代表的なスポット	ねぶた・五稜郭	兼六園・21世紀美術館	東大寺・金閣寺	原爆ドーム・厳島神社	グラバー園・平和記念像
こんな人におすすめ!	壮大な景色と独自の文化を体験したい	洗練された街歩きとデザインが好き	教科書の歴史を「本物」で感じたい	命の尊さや古事古語の美しさを学びたい	多様な文化もテーマパークも全部満喫したい

本校では、旅行で大きな割合を占める移動時間と行動形態について、数値化した2枚のスライドを独自に追加いたしました。1枚目は交通手段移動時間の比較表です。東京候補地間の移動時間と、現地での団体バス等の移動時間を数値化したものです。

一目でわかる! 修学旅行先5大エリア徹底比較ガイド					
青森・函館	北陸	京都・奈良	広島・京都	九州	
新幹線	新幹線	新幹線	新幹線	飛行機	
団体行動	団体行動	個別行動	バランス型	バランス型	
普通	低い	高い	高い	低い	
まち歩きや学習施設、観光や自然をじっくり楽しむ。	まち歩きや学習施設、自然や歴史をじっくり楽しむ。	歴史や文化、自然、食文化をじっくり楽しむ。	歴史や文化、自然、食文化をじっくり楽しむ。	歴史や文化、自然、食文化をじっくり楽しむ。	

2枚目は、行動形態とその時間についてです。生徒だけで行動する班別行動の時間と、学年全体で行動する団体行動の時間。どちらが多いのか、また具体的にどれくらいあるのかをまとめました。行程表を見ただけでは生徒が気づきにくい部分を数値化することで、感覚的な選択から論理的な選択をさせることを目指しました。

交通・時間の比較 ①

青森・函館	北陸 金沢+周辺	奈良・京都	広島・京都	九州 長崎+周辺
東京→函館 新幹線 4時間 函館→青森 新幹線 1時間 青森→東京 新幹線 3時間 団体バス 4時間30分	東京→金沢 新幹線 往復 各2時間30分	東京→京都 新幹線 往復 各2時間10分	東京→広島 新幹線 4時間 広島→京都 新幹線 1時間40分 京都→東京 新幹線 2時間10分 バス・フェリー 2時間30分	東京→長崎 飛行機 往復各3時間

見学の仕方・時間の比較 ①

青森・函館	北陸 金沢+周辺	奈良・京都	広島・京都	九州 長崎+周辺
団体行動 大沼周辺体験 函館山 三内丸山遺跡	団体行動 永平寺 恐竜博物館 ゆのくに体験 白川郷見学	班別行動 15時間 京都市内 奈良公園	班別行動 10時間 京都市内 平和記念公園	団体行動 吉野ヶ里遺跡 大宰府 平和記念公園
班別行動 6時間 函館市内	班別行動 4時間30分 金沢市内	団体行動 法隆寺	団体行動 宮島	班別行動 9時間 長崎市内

それでは、プレゼンテーション当日の様子を撮影した動画をご覧ください。まず、私校長から説明した目的についての説明動画となります。＜動画＞

「嬉しいですね。自分たちで旅行先を決めるというのはとても嬉しいことだと思います。それでなぜこんな取り組みをしているのかというと、中野区としては皆さんが安心して自分の意見を言うことができる学校づくりというのを目指しています。」「君たちの考えていることをぜひ学校教育活動の中に生かしていきたいし、これからの世の中、君たちが積極的に意見を出せる君たちになってほしい。そういう目的で意見が出せる学校づくりを目指しています。ですので、この取り組みの中でぜひ大切にしてほしいのは、自分の考えていることを積極的に伝えてください。僕はこう思うんだ。こんなことを大切にしているんだ。ここが楽しみなんだ。積極的に仲間に伝えてもらいたいなと思っています。」

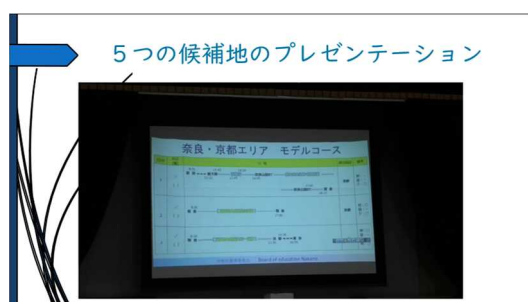
ただ、大事なのが意見を言うだけじゃなくて、人の意見を大切にすること、これが大切ですね。

自分の言いたいことだけ言って人の話は聞かないではなくて、みんなが幸せになるためには、みんながより良い学びをするためにはどうしたらいいのか。意見を交わしながら、たくさん話しながら、一緒に答えを探していくという作業が大事になってから、ここを大事にして欲しいなと思っています。」

はい。このように、まず目指すべきゴールを明確にし、心づくりを行った上でプレゼンテーションに入りました。

次に、学年教員による5つの候補地のプレゼンテーションの様子です。動画は奈良京都の説明の様子を抜粋したものになります。

＜動画＞



「奈良と京都は日本の古い都が置かれた地域で、日本の歴史や文化の始まりを学ぶことができる場所です。この修学旅行では、教科書で学んだ歴史を、実際の建物や仏像を通じて理解することができます。他の候補地に比べ、京都は班別行動やタクシー行動など、自分たちで行き先を決められる自由度が高いこともその一つです。また、他の候補地に比べ移動時間が少なく、移動費用も少なくなるため、その分食事や体験学習、宿舎などを

充実させることができます。」

「まずは奈良です。奈良公園は奈良県奈良市にあるとても広い公園です。この公園の一番の特徴は、たくさんの鹿が自由に暮らしていることです。実際に、鹿せんべいをあげたりすることもできます。」

「また東大寺は奈良の大仏があるお寺として全国的に有名です。世界遺産にも登録されました。世界最大級の木造建築で、大仏は高さ14.7メートルです。ビル5階分の高さにあたるので、南中の校舎よりも高い作りになっています。大仏殿内は“柱の穴くぐり”があることでも有名です。すごく狭い穴なんですけど、見事くぐり抜けると願いが叶うとされています。さらに奈良には日本初の世界遺産として登録された法隆寺もあります。」

「次に京都です。観光地として世界的に人気があり、皆さんも一度は名前の聞いたことがある建造物が多くあります。こちら二条城は徳川家康が築いたお城です。特に有名なのは“ウグイス張りの廊下”。歩くと鳥が鳴くような音がします。是非一度歩いてみてほしいです。」

「そして伏見稲荷大社。伏見稲荷の特徴ともいえる、朱色の鳥居のトンネル。“千本鳥居”と名前が付いていますが、実際にはそれ以上あり、今も新しい鳥居が増えています。また、“面影石”と呼ばれる有名な石があります。石を持ち上げてみて、自分が思った重さよりも軽かったら願いが叶うと言われてます。是非、挑戦してみてください。」

「この他にも嵐山、また銀閣寺など班別行動の自由度の高さから、様々な場所に行くことができるのも魅力の一つです。是非、京都奈良で日本の歴史や伝統文化を体験してみてください。以上で奈良京都の説明を終わります。」

はい、奈良京都以外の4つの候補地についても、今同様のよう説明を行いました。5つの候補地の説明の後、選定するための視点と比較するための資料の説明を行いました。

<動画>

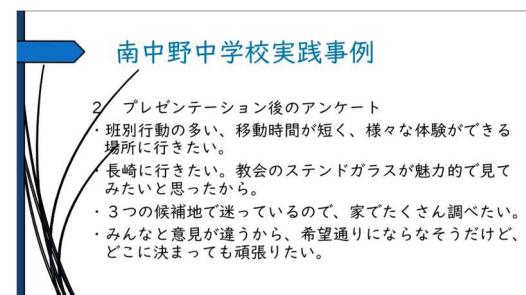
「考える視点は色々あると思いますけれども、まず自分が行きたいところ、それから友達と一緒に行きたいところはどこかなと今みんなが考えていると思います。それから2つ目交通。飛行機はどうかとか、新幹線いいなとか思っていると思うんですけども、移動時間についてもう一回まとめていきます。」



「そして、みんなで行くんだけど、班行動で自分たちで決めるということができるのはどこかなとか、そんな視点もあると思います。そして、食事やお土産楽しみですね。そして最後、天気による影響というところですけども、楽しみな飛行機。台風が来たら、もしかしたら遅れたりするかもというところもある必要はあるかなと。」「広島から宮島に足を伸ばそうかな。フェリーは天気の影響どうなんだろう。そんなところも考えてみてください。」

「これらのスライドは、この後皆さんのクラスルームにも配信しますので、自分が考える材料として活用してみてください。行き先についても、それぞれどんな特徴があるかという表、モデルコースも5つありましたけれども、改めてゆっくり見るができるように5つ配信しますので、ぜひ見比べてみてください。」

先ほどのスライド資料については、生徒が調査や比較をできるようにするために、生徒用のiPadに配信いたしました。プレゼン終了後に、今自分が感じていることについてiPadにアンケートを取り、全生徒に共有しました。内容を見てみると、班別行動の時間についてや、自分が興味関心があることについて、または自分がこの選択に関する思いなど様々な意



見が出ていました。インタビューをした動画もありますのでご覧ください。

<動画>

先生「今どう思っていますか？」

生徒「全部楽しそうだった」

先生「どうですか？」

生徒「みんな良かった」

先生「みんなポジティブですね。いいですね。」「どうですか。今どんなことを感じていますか？」

生徒「広島と京都に飛行機で行きたい」

先生「なるほど。京都広島は、新幹線なんだな残念ながら。どちらか選ばなければいけないね。」

先生「今どうですか？聞いてみて。」

生徒「全部魅力的だけど。京都は行ったことがあるけど、他はあまり知らないから。あとで調べてみてから決めたい。」

先生「是非、調べてみてください。」

先生「男性陣どうですか？今どんなことを考えていますか。」

生徒「僕は九州行きたいですね。飛行機に乗れるし、修学旅行だから遠いところに行きたい」

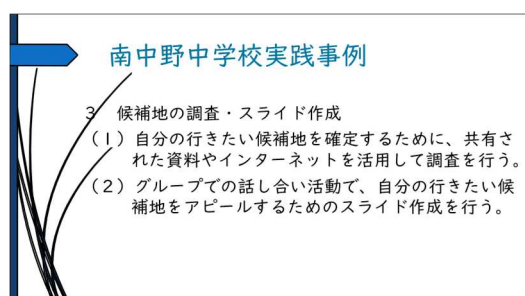
先生「いいね。ありがとうございます。」「この辺は結構もう打ち終わっていますね。どうですか？今どんなことを感じていますか。」

生徒「私はまだ具体的にはどうしたいか決まっていんですけど修学旅行は班別行動が多い方がやっぱり楽しいし、みんなで体験できるようなそういうところも行きたいなっていました。」

先生「ありがとうございます。しっかりしているね。よく考えている。素晴らしい。」

子どもたちがとても楽しみに、前向きに取り組んでいる様子が伝えられたかと思います。また、様々な視点から候補地について捉えていることもわかりました。

次に、生徒は候補地の調査とスライド作成に取り組みました。生徒は教員のプレゼンで聞いたこと、また iPad に共有された資料などをもとに独自に調査を進め、自分の行きたい候補地を確定するとともに、自分の行きたい候補地をアピールするためのスライド資料を作成しました。スライド資料の作成の様子です。自分が行きたい候補地を紹介する資料を作成しています。<動画あり>



iPad でのスライド作成については、小学校からの積み重ねでもあり、非常にスムーズでした。生徒が作成したスライドは、中野区が作成したスライド資料では紹介されなかったような、自分が魅力を感じている場所を紹介したスライドでした。

特に自分の興味関心が高く、魅力を感じているものをピックアップしたスライドが多く見られました。候補地でみんなでやってみたいことをアピールし、仲間の気持ちを惹きつける生徒もいました。

また、レーダーチャートを活用し、論理的に 5 つの候補地を分析説明する生徒もいました。中学生の学びの意義を自分なりに深めたり、自分たちが身につけるべき力を真剣に考え、力強くアピールする生徒もいました。調査の時間は授業で 1 時間と、あとは家庭学習での取り組みとなりましたが、限られた時間の中でより良いものを作ることができていたと思います。

調査の後は、作成したスライド資料を使用し、生徒間でプレゼンテーションを行いました。6 人班を作り、順番に自分の行きたい候補地についてアピールをします。その後、班の代表者が班で出た意見をまとめ、学級全体に共有しました。生徒間プレゼンテーションについても動画をご覧ください。話し合いの様子が伝わればと思います。＜動画あり＞先ほどレーダーチャートを使って使用したスライド資料を作成した生徒のプレゼンです。＜動画あり＞この生徒は、5 つのコースを全て点数化した上で比較し、長崎という選択をしたということを論理的に説明していました。

南中野中学校実践事例

4 生徒間でのプレゼンテーション

(1) 6 人班で、スライド資料を使用し、自分の行きたい候補地についてプレゼンテーションを行う。

(2) 班の代表者が、班で出た意見をまとめ、学級全体に共有する。

プレゼンテーションの後は Google フォームを使用し投票を行いました。本校ではできる限り生徒の選択を汲み取れるよう、5 つの候補地から 2 箇所を選定し、その後、決選投票を行う 2 段階方式を採択いたしました。1 回目の投票結果はグラフの通りです。「奈良・京都」が 1 位、「函館・青森」、九州が同率 2 位でした。そのため、決選投票は「奈良・京都」、「函館・青森」、九州の 3 か所で行いました。

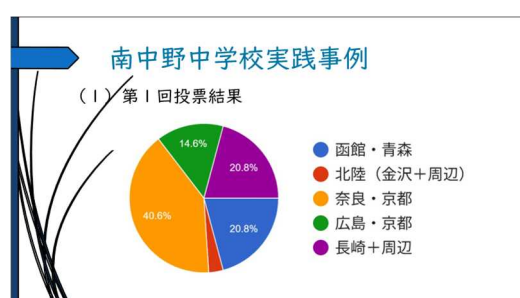
南中野中学校実践事例

5 Formsでの投票

(1) 5 つの候補地で投票 → 上位 2 か所を選定

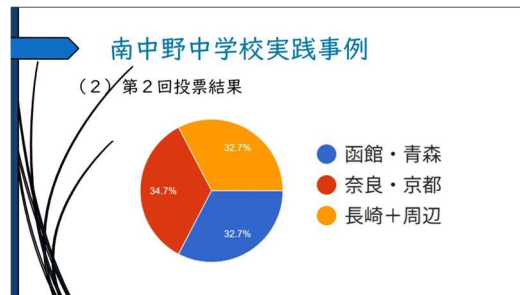
(2) 上位 2 か所で決選投票

※ できる限り生徒の選択を汲み取れるよう、各中学校で決定方法を工夫することが、修学旅行検討委員会で確認された。



2 回目の投票結果はグラフの通りです。僅差で 1 位「奈良・京都」、2 位が「函館・青森」、九州。2 位はまたも同率でした。非常に接戦となりましたが、最終的に「奈良・京都」となりました。

投票の際に投票理由についてもアンケートを取りました。いくつか紹介します。



九州に関しては飛行機に乗りたいという理由が多かったです。広島、京都は幅広い時代の歴史を学ぶことに魅力を感じた生徒が多かったようです。青森、北海道は自然への憧れや、またアニメ映画コナン君の舞台を見たいという意見も多数挙がりました。

北陸は混雑が少ない環境で、震災学習や多様なアクティビティを実際に体験したいという意見が挙がりました。奈良京都は歴史的な資源の多さと班別行動の時間が長いことが選定の要因になったようです。

結果発表を行った際の学年集会の様子です。

<動画>

「では、発表していきますけど、一回練習したいです。私が宿泊旅行の行き先が決まりました。このコースですって言ったら拍手をしてもらいたい。練習します。練習。修学旅行の行き先が決まりました。修学旅行は中野区です。」(拍手)「お金かからなくていいね。(笑)じゃあ、本番の発表をしますけど、前向きに受け止めるように。その前に今日 6 時間教室に帰ったら、そこの行き先についてこんなこと楽しみだなんていうのを書いてもらいたいから、6 時間目過ごすまでにまでに考えておいてください。」

「ではいきます。修学旅行の行き先は... 奈良・京都です。」(拍手・歓声)

「今聞いて、そうでない人もいたけど、でもみんな笑顔になってくれたのがとても嬉しいし、絶対いい修学旅行にできる人たちですよ。決定したので楽しみにしていきたいと思います。因みに私は修学旅行に行く生徒たちに何度も言っているんですけど、今まで行ったものを超える最高の修学旅行にしようって心に誓っているんで、みんなでいい修学旅行にしたいと思っています。では、いい修学旅行に向けて頑張りましょう。ありがとうございました。」

結果発表後、希望の叶わなかった生徒もいますので、前向きに行事に向き合えるよう、奈良京都をどう楽しむかポジティブなアンケートを取り全体に共有しました。大きな不満の声も現れず、決定した奈良京都を納得感、期待感が感じられるアンケート結果となりました。教員も生徒の気持ちに応え、良い修学旅行を生徒と共に作っていく決意を固めました。

本校はこのような結果となりましたが、中野区 9 校の結果は以下の通りとなっております。どの学校も「奈良・京都」、「青森・函館」、九州の 3 箇所に投票が集中する結果となりました。丁寧に結果分析を行い、次年度の候補地選定に活かしていきたいと思っております。

南中野中学校実践事例

6 投票理由のアンケート①

- ・「飛行機」に乗りたかった。空からの景色を楽しみたかった。(九州)
- ・原爆ドームで歴史を学び、宮島の美しさを感じたかった。(広島・京都)
- ・コナンの舞台になった函館五稜郭に行ってみたかった。(青森・函館)

南中野中学校実践事例

6 投票理由のアンケート②

- ・他の場所に比べて空いているし、災害のあった地域の復興の様子を学びたかった。(北陸)
- ・教科書に出てくるようなものをたくさん見ることができる。(奈良・京都)
- ・移動距離が短く、たくさん班別行動があるから思い出が作れる。(奈良・京都)

南中野中学校実践事例

7 奈良・京都への修学旅行に向けて

- ・金閣寺や千本鳥居など美しいものを目に焼き付けたい。
- ・班別行動が 2 日もあるので、行きたい場所を仲間と選ぶのが楽しみ。
- ・抹茶を通して、日本の伝統を感じたい。
- ・鹿との触れ合いを思い切り楽しむ。

中野区全中学校（9 校）の結果

奈良・京都	3 校
青森・函館	4 校
九州	2 校

Ⅳ.成果と課題、次年度への改善点

それでは、成果と課題です。

成果としては、生徒の意欲、主体的な態度を引き出すことができた点です。自分たちが決めるという当事者意識が意欲を高め、主体的に調査したり発言したりする様子が見られました。また、物事を多面的に考察することや、人の意見を受け止めながら自分の意見を主張して伝えるといったキャリア基礎的汎用的能力を育成することにもつながったかと感じています。

課題もたくさん挙がりました。

1つ目は、学校経営方針や教員、生徒の実態など、学校が状況に応じた行き先が決定することができないということです。例えば、人権教育に力を入れている、平和学習に力を入れている、社会問題の改善について探究しているなど、各校が重点的に取り組んでいる学習課題に合った行き先を選択できなかったり、また、課題ある生徒が多く団体行動を取りたいとか、また若手教員が多いため見通しが立つ、関西方面が良いなど、学校の状況に応じた行き先を決定することができない点が課題です。

また、中学1年生の4月に行き先を決定することは、時期的、時間的にも、また発達段階的にも厳しい現状もあります。十分に事前準備をし、丁寧に学習を進めていく必要性を改めて感じました。

成果と課題

3 次年度に向けて

- ・教員が多様な修学旅行先についての理解を深められるよう、積極的に研修会に参加する。
- ・中野区立中学校9校、また学区小学校との情報共有を活発にし、教員・生徒ともに見通しをもって行先を選定できるようにする。
- ・カリキュラムの再構築を図り、余裕のある実施計画を立案する。

これらの課題を踏まえ、次年度へ向けた改善点の1つ目は、生徒のニーズにあった候補地を準備することです。奈良京都以外の地域の情報が少ないため、新たな候補地について調査研究を行ったり、また中野区9校で情報を共有したりして、様々な地域について理解を深める必要性があります。

また、中学1年生でこのような活動があることを小学校時代から見通しを持つことも重要と考えます。小学校段階で修学旅行や候補地についての学習を進めるなど、小中の連携も必要になると考えます。

また、3年間の総合的な学習の時間や学級活動などの計画を見直し、大きな教育的効果が得られるカリキュラムの再構築も検討が必要かと思いますので、中学校長会や修学旅行検討委員会などで対話を通し、改善を図っていこうと考えております。

まだ始まったばかりで課題は多いですが、次期学習指導要領の「自らの人生の舵取りする力」と、「民主的で持続可能な社会の創り手育成」に資する活動になると感じております。

成果と課題

1 成果

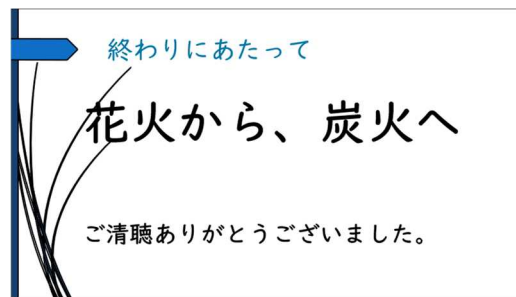
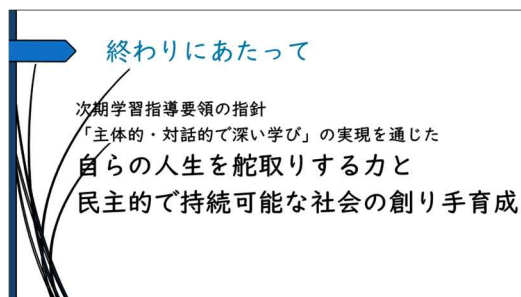
- ・生徒が当事者意識・高い意欲をもって、コース選定に取り組んでいた。
- ・多面的に考察する視点に気付くことができた。
- ・自分の意見を素直に発表することができた。
- ・対話を通して、互いの考えを尊重する心が育った。

成果と課題

2 課題

- ・学校経営方針、教員・生徒の実態など、学校の状況に応じた行先を決定することができない。
- ・中学1年の4月という学校で最も多忙な時期であるため、時間をかけて、丁寧に進めることができない。
- ・入学間もない1年生であるため、修学旅行のイメージや見通しをもつことができていない。また、判断力も未熟である。

単なるイベントで終わらせず、継続的に生徒の主体性に火をつけられる炭火となるよう改善を図るとともに、他の自治体や全国修学旅行研究協会などの取り組みから積極的に学び、仕組みづくり、文化づくりを進めてまいります。



今後も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。以上で中野区「生徒が考える修学旅行」の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

《質疑応答》

【 質疑① 】

私は、千葉県木更津市立木更津第一中学校で校長をしております石井と申します。本当にありがとうございます。子どもが主体的に考えるというすごい取り組みだなと見させていただいたのですが、ひとつ、これをやるにあたって、保護者の方にも色々ご理解いただけなくてはいけない部分があったと思うのですね。その部分では保護者に対しての説明などは、市教委の方からあったのか、学校から行ったのか、聞かせていただければ参考になると思います。よろしくお願いいたします。

【 竹之内 】



ご質問ありがとうございます。保護者という視点においては、中野区は中学校 PTA 連合会と中学校長会、それから中野区教育委員会の連携が非常にうまく進んでいます。さらにプラスアルファというところでは、区立の小学校 PTA 連合会との連携等も進めていまして、その中で子どもの意見を表明するというような形の学校のスタイルを作るに当たって、様々な熟議の場が設けられてきたという経緯があります。

今まだ花火かもしれませんけれども、こういった形で修学旅行という子どもたちの学びの集大成を、子どもたちの意見でというような形で進めるのは、子どもたち自身にも一つの良い印象的なものになるのではないかといいところから入っていったという経緯もありましたので、まずは中学校 PTA 連合会との関わりの中から一緒に進めてきたというところと、それをもとにした各校の PTA の総会等での紹介や、また、当然のことながら保護者会での校長からの説明などを繰り返しながら進めてきたというところでございます。

区教委の方が主導してこうするとするぞというよりも、どちらかというと PTA 連合会と校長会との繋がりがボトムアップしていったというような様子で捉えていただけた方が分かりやすいかと思います。

【 質疑② 】

岐阜県岐阜市の青山中学校校長の平塚と申します。本日はありがとうございました。

いわゆる本当に子どもの権利条約の意思表明権、それから今度の OECD から出ているエージェンシーのことも踏まえた、子どもたちによって折り合いをつけていく、いわゆるシティズンシップ教育も取り入れられて、本当に素晴らしい実践でうらやましい限りだなと思いました。

岐阜県でいうと、なかなかお金の助成がなくて、ちょっとでもお金を減らして保護者負担をなくすように必死になってやっているんですけど、どうやったらこのような助成がもらえるようになるのか、その方法ももしできましたら教えてください。よろしくお願いします。

【 竹之内 】

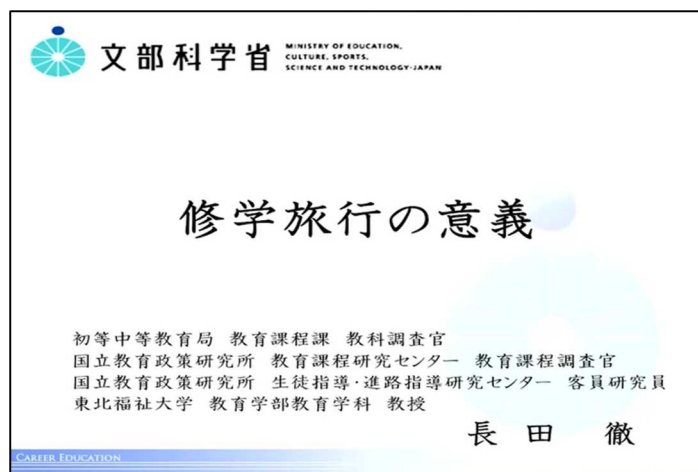
やはり様々な家庭環境をお持ちの子どもたちが集まる公立小中学校でございますので、学びにおける引け目を感じることはないような、そういう区を作りたいという区長の思い、その思いを教育長と共に我々校長会がどういう形でやったらできるだろうか。

スタートは、実は教材費を削減することから始めました。年間の教材費を1万円未満にするにはどうしたらいいだろう。例を出しますれば、書道の半紙一つとっても、新聞紙を使えばいいのではないかとあるとか、あるいは書初め展に出す長い半紙についても、学校で買って子どもたちに分ければいいじゃないかとあるとか、あるいは一人一人に買わせていた絵の具も学校でボトルで買って、必要なものをパレットに入れば、少しでも変えられるんじゃないだろうか。他にも合唱の冊子1冊ずつ買わせているけれど、80冊買えば2クラス分あるから貸し出しをすればいいんじゃないか。そういうところから、コロナ禍における家庭環境の厳しい子どもたちを、どのように学校環境の中で一緒になって学ばせることができるだろうかと、本当に5年、6年、7年前から色々な取り組みをする中で、こういった流れになったものと考えております。



【講 演】

「修学旅行の意義」



東北福祉大学 教育学部 教育学科 教授

長 田 徹 氏

《講演者紹介》

長 田 徹（おさだ とおる）氏

東北福祉大学 教育学部 教育学科 教授

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官

宮城県仙台市立公立学校教諭、仙台市教育委員会学校教育部指導課指導主事、同確かな学力育成室指導主事として学力向上、キャリア教育を担当。

文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導調査官、国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター総括研究官などを経て、2023年4月より現職。

皆さんこんにちは。皆様の貴重なお時間をここから1時間程度になりますが、私の方で拝借することになりました。東北福祉大学、文部科学省に所属しております長田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

あらかじめお断りさせていただきます。教科調査官ということで、今現在、学習指導要領の改訂に携わっております。次の学習指導要領で修学旅行がどうなっていくのかということについてお話をさせていただきたいと存じますが、あくまでも審議経過というところでございまして、確定しているものではないということをお話を聞いていただければと思います。



2 点目でございます。私は学校現場に対して一方的な授業はやめてくださいとお願いをしております。主体的で対話的で深い学びを学校現場にお願いしている関係上、私が皆さんの前で 60 分一方的にしゃべり続けることはできないんです。皆さんに少し活動していただく予定です。

二人か三人でチームを組んでいただきたいと思います。周りにお声がけいただいてチームを確認していただけますでしょうか。どうぞ。

ありがとうございます。それでは今日初めて声をかけた方とチームを組んだ方もいらっしゃると思います。自己紹介をお願いしてもよろしいでしょうか。どうぞ。

はい、皆さんありがとうございました。1 分経過いたしました。それではもう 1 点だけお願いがございます。このチーム内で、この後役割分担をしてお話をしていただくんですが、そのためにジャンケンをしていただきます。このジャンケンの勝ち負けが 60 分間尾を引くこととなります。勝ったか負けたかで相当違う 60 分になりますので、なるべくであればジャンケンはお勝ちになった方がよろしいんじゃないかと思います。3 人組のところは 1、2、3 位まで決めていただくということで。ではジャンケンどうぞ。

ありがとうございました。それではここからジャンケンで勝った方、一番になった方は一貫して A さん役を務めいただきます。A さん役とはジャンケンで勝ちましたので、何も思考せず、ただ読めばいい児童生徒や新入社員役を務めていただくことになります。

一方で、ジャンケンで 2 番目になった方は B さん役。3 番目になってしまった方は C さん役をお務めいただきますが、B さん、C さんはもうあきらめてください。ジャンケンで負けましたので。相当思考しなければいけない大人役、先輩社員役をお務めいただくことになります。

それでは、A さんは新入社員です。ベテランの B、C 先輩（上司）にこう聞いてきました。「修学旅行は日本にしかない学校文化だと聞いていますが…」皆さんお分かりの通り、よその国にいったら修学旅行はありませんからね。日本だけですよ。「教員の働き方改革やアレルギー対応等の問題もあって、将来修学旅行がなくなってしまうということは考えられないでしょうか。」

そうですね。新入社員にとっては修学旅行がなくなったら自分の職業はつてなりますからね。そんな心配 B、C 先輩だったらなんて答えてあげますか。この後、私がどうぞと申し上げましたら、ジャンケンで勝った A さんは何も考えずにこの吹き出しを読み上げてください(笑)。B、C 先輩、今のあなたのお考えを A さんにお話してあげていただけますでしょうか。では、参ります A さんジャンケンに勝って良かったですね。どうぞ(笑)

はい、皆さんありがとうございました。難しいですね。また 50 分後にもう一度これをお考えいただくことになります。

さて、話題はガラッと変わります。今度は A さんには中学生になっていただきます。そして B、C さんにはこの中学生の保護者、親になっていただく予定です。

Aさんは中学校3年生です。サッカー大好き、運動大好きなんです。将来は体育の中学校の教師になって子どもたちと一緒に体を動かすことを楽しみにしているんですね。将来は学校の先生になりたいって口癖のように言っています。

ところがこの子、計画的な勉強が苦手です。自分で立てた計画なのに、それを実行することができません。そのため中間考査では全然準備ができず大失敗。本当は入りたかった長田高校への進学が難しいようなんです。

それでお父さん、お母さんに誓いました。次の期末考査は計画的な勉強をして必ず自分の実力を出してみせますって約束したんです。念のためお父さん、お母さんと“指切りげんまん”までしました。それなのに、期末考査一週間前、部活が休みになって早々帰ってきて親が聞いているとも知らずにこんなことを友達と会話していました。「いや～、昨日は久しぶりに部活休みでめっちゃ楽しかった。町で遊べたし、見たかった見逃し配信も全部見れたし。だから昨日は1分も勉強してないんだ...」お父さん、お母さん聞いてしまいました。部屋に籠っていたと思ったら見逃し配信見ていましたよ。“指切りげんまん”までしたのに。



ではAさん、中学校3年生になりきってふきだし読み上げてください(笑)。お父さん、お母さん、いつも家庭でおっしゃっている通り、もしくは子どもが育ってしまった場合、10年前、20年前を思い出していただいて、この場面だったら自分はこう声を掛けたなをやってみたいと思います。ではAさん、何も考えずに読み上げてください。どうぞ。

はい、皆さんありがとうございました。これ目的をちょっと整理してみたいと思うんです。この場面で親は何故子どもに声をかけたか。もうお分かりですよね。怒りをぶつけるために声をかけたんじゃないですよ。一週間前部活休みになって、昨日、例えば1分も勉強しなくても残り期末考査まで6日も残っていますよね。残り6日気持ちを入れ替えて勉強すればいいだけです。そう促せばよかったんですよ。学習への動機付けが目的です。もっと優しい言葉を使って、息子の学習意欲を高めればよかったんです。ではAさん、今の言葉を思い出してみても学習意欲が促されましたか(笑)。爆笑になっていますが...

それでは子どもがやる気にならない危険な対応のパターン4つ。私がやってみたいと思います。中学校3年生のサッカー大好き少年の気持ちで聞いてください。

1つ目。「え～、昨日全然勉強していなかったのか。中間考査の時の反省はもう忘れたのか。もう間に合わないぞ。あと一週間はご飯とお風呂以外の時間はずっと勉強しなさい。」やる気になりますか。ならないですよ。絶対やりたくなる。勉強なんか二度とやるかってなりますよね。子どもがやる気にならない原因がこの対話の中に実は2つあるんです。

1つは、中学校3年生という発達段階を踏まえれば、自分で決められるんですよ。ところが、自分で決められる人に決めさせたいんですよ。その余地を与えていないんです。そしてもう一つ明らかな無理がこの文章の中にありますよね。どこかお分かりになりますか。そうですね。ご飯とお風呂以外の時間勉強

しなさいって大人でさえ無理じゃないですか。明らかな無理を子どもに仕掛けると、子どもはやる気が出ません。

2つ目。「あと一週間は誘惑に負けないようにリビングで勉強しなさい。」監視です。「毎日どこまで勉強したかお父さんに報告してから寝るように。」これもやる気が出ません。意思決定ができる発達段階に意思決定をさせていないことと、強い強制の意図がこの文章には見えます。

3つ目。「期末考査の結果が出なかった時には、顧問の先生に言います。しばらく部活禁止です。」これ言っちゃうんですよね。ついね。意思決定の余地が与えられていないことと、学習以外の生活に制限が及び始めました。

そして最後「今朝 D さんのお母さんにあったら、D さんは昨日 7 時間も勉強したって言ってたよ。そういえば、あなたのお姉ちゃんは今 3 の時は...」ってこれ姉弟でつい比較しちゃうんですが、もう皆さんお分りの通り、子どもは誰かと直接的に比較されると苦しくなるんです。

さて、修学旅行の話をしに来た人がなんでこんな話しているのか。これ実は、学習指導要領の肝です。今の日本の子どもたちの大きな課題を示した一つの例なんです。では、ここから 3 つのキーワードで修学旅行の意義、次の学習指導要領における修学旅行についてお話をさせていただきます。

修学旅行は法的根拠があります。学習指導要領の中に位置付いています。全国どこの学校も修学旅行に行くのはこれがあるからです。

「学習指導要領」。全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようするための大綱的な基準で法規としての性格を有しています。

ここから難しい話が続くだろうと思うと続きません。では、こういう中学校 2 年生が不安を打ち明けてきたら、お父さん、お母さんなんて答えますか。

「お父さん、お母さん...修学旅行は何のためにするの。3 年生になると修学旅行があるんだけど、注意事項の話し合いばかりでやる気が出なくて...。」何持っていつちゃダメ、どういうルールにしなければダメ、新幹線の中では何しなさい、お小遣いはいくらって、注意事項の話し合いばかりになっちゃうんですよね。それをこの子は疑問に思っていたんです。それでは A さん、何も考えずに読み上げてください。お父さん、お母さん、この子の疑問に答えてあげてください。どうぞ。



はい、皆さんありがとうございました。それでは話を少し戻します。学習指導要領は各教科等別に成り立っております。その中に「特別活動」という領域があって、特別活動の中の学校行事、そしてその学校

行事の中には5つの種類があって、その4番目に中学校、高校は「旅行・集団宿泊的行事」という種類があるんです。ここに修学旅行は位置付いていることになります。

特別活動って何なのか。これも簡単に整理するために、少し対話をさせていただきます。今度はAさんは小学5年生です。小学校学級新聞の係がBさん、Cさん今のあなたです。今のあなたのところに、小学校5年生の学級新聞係が取材にやってきたと思ってください。

「あの～、学級新聞の取材なんですけど、あなたの中学生時代の一番楽しかった日を教えてください。どんなところが楽しかったかも教えてください。」5年生に分かるようにお話ししていただいてもいいですか。目の前にいるのは5年生だと思って分かるようにお話をしてください。学級新聞係のAさん、読み上げていただけますか。どうぞ。

はい、皆さんありがとうございました。いかがでしょうか。ここで、国語、数学、算数、理科、社会、外国語という教科の授業のことを挙げた方はいらっしゃいますか。いないですね。いないんですよ。これ大学生にさせてみても、教科のことを言う子は一人もいません。ほとんどの子は「体育祭」、「文化祭」、「修学旅行」これです。この3つですよ。もう先生方皆さんお分かりの通り、教科以外のほとんど全ての活動は特別活動と言って過言じゃないんです。

「儀式的行事」。入学式や卒業式ですね。そして先ほど申し上げたように、「旅行・集団宿泊的行事」。中に生徒会の活動を挙げる子も何人かいますが、それも実は特別活動なんです。そして文化祭は「文化的



行事」、体育祭は「体育的行事」ですね。職場体験活動へ行ったり、または老人介護施設なんかにはボランティアに行ったりするのも当然、学校行事、特別活動です。

ほとんどの子は特別活動を一番の思い出に挙げてきます。それほど子供たちの心の中に残るのがこの特別活動なんです。繰り返しになります。特別活動の学校行事には5つの種類があり、その4番目にこの修学旅行の根拠となっている「旅行・集団宿泊的行事」があります。

現在、学習指導要領の改訂が進んでおりまして、中央教育審議会の特別活動ワーキンググループはまとめの報告を先月出しました。6月23日です。その資料をそのまま本日私、貼り付けてまいりました。次の学習指導要領の方向性、キーワードは、「自らの人生を舵取りする力を子供たちにつけてあげたい」。そしてもう一つは、「民主的で持続可能な社会の創り手を育成したい」です。

学校行事についてはここに明示されています。大テーマは、「子どもたちが創造する活動として学校行事を位置付けていく」はっきりと書かれています。そしてその上で、「子どもたちが学校行事の意義を理解し…」大人がじゃないですよ。大人はもちろん理解していますが、子どもが学校行事の意義を理解し、「主体的に役割を担い、協働しながらよりよい学校行事を創造することが重要」と明示されているのです。

子どもたちが修学旅行を創れるかなって今皆さん思っていると思うのですが、作らせてみてもらえませんか。これが次の学習指導要領の大きな方向性です。

その上で3点留意点。まずは安全確保です。今年に入って子どもたちの移動や修学旅行で大変大きな事故が続いていますので、この安全確保は第一の命題。

そして2つ目。繰り返しになりますが、学校行事の目的や教育的な意義をちゃんと理解した上でそれを創っていくということ。

そして3点目、これは今の学校教育の命題でもあります。教師の負担を軽減してあげなければいけない。この3つは留意事項だと述べられています。

今回のワーキンググループのまとめには、修学旅行をきちっと取り上げた上で方向性を示しています。では、修学旅行を取り上げた上で何が書かれているか補助資料から。

現在、学校行事、特に修学旅行においては、「総合的な学習の時間」で取り扱うパターンと、「特別活動」の学校行事で取り扱うパターンが混在していてうまく整理ができていない現状が見られています。

ただし、法的根拠は「特別活動」の学校行事にあります。皆さんもお分かりの通り、「総合的な学習の時間」は、子どもたちの「問い」「課題」の設定から始まりますから、修学旅行を「総合的な学習の時間」の中でしなさいとは内容規定できないことになっています。

「儀式的行事」や文化祭などの「文化的行事」、体育祭などの「健康安全・体育的行事」は原則、「総合的な学習の時間」として取り扱うことはできません。あくまでも学校行事として取り扱ってくださいとした上で、修学旅行などを含む「旅行（遠足）・集団宿泊的行事」、そして職場体験活動やボランティア活動などが入ってくる「勤労生産・奉仕的行事」については、積極的に「総合的な学習の時間」と「特別活動」を関連させてくださいということが明示されている。今回、これがきちっと整理をされています。



しかし、注意しなければならないのが「自己の生き方に関わる学習課題を児童生徒が設定する、課題の解決に必要な計画を児童生徒が立てるなど、総合の目標や学習過程を踏まえた探究として実施する場合に、修学旅行を総合的な学習の時間として取り扱うことができる」。ということは、修学旅行を総合、特活両面で扱うには、やはり特活の修学旅行の意義と、総合の学習過程の意義を両方ちゃんと理解した上で取り組んでくださいということがここにはっきりと書かれているわけなんです。

因みに補助資料には、こんなところを気を付けると、うまく特別活動と総合的な学習の時間を組み合わせて修学旅行が創れますと例示までされているんです。これはあくまでも審議過程で出された例示なので、この後、総合的な学習の時間と特別活動の指導資料などがもっと詳しく、実際の学校の例などを挙げてご紹介しますので、それはぜひ参考にさせていただいて、今後の修学旅行を創っていただきたいと思います。

さらに補助資料は、こんな視点を大事にすると修学旅行が総合学習でも生かせるし、特別活動としても生かせるという資料がついています。これについてもちょっと理念的なので、この後、指導資料や手引きなどを作成する際に、実際の学校の例に基づいて各地に紹介しますので、それを参考にして修学旅行を創られてください。

総合と特活の関連をここに整理しています。「自分の生き方を修学旅行の中で考えさせる」。カタカナに直しますね。「キャリア」ってなっていますよね。「キャリア教育」に基づいていれば修学旅行を総合的な学習の時間で運営することも、特別活動として運営することも無理なくできるであろうという説明です。

現行の学習指導要領は、修学旅行の意義をこのように整理しています。

まずは、学校における学習活動を充実発展させるために修学旅行がある。これが大前提です。その上で、単なる物見遊山に終わることのない有意義な旅行・集団宿泊的行事を計画実施するように十分留意することとなっているわけなんです。

“生徒が創り手” 校内の学習活動の発展の場。これがこれからの修学旅行の求められる姿です。

高校生が参加する国際的な学力調査「PISA 2022」の結果です。数学 1 位。読解力アイルランドと並んで 1 位。科学 1 位ですよ。1 位 1 位 1 位、優秀ですね私たちの教え子たちは、後輩たちは。1 個前の PISA (2018) で読解力が 11 位になって学力低下と騒がれたんですが、これだけの中の 11 位ですよ。やっぱり上位ですよ。



一方で、PISA はこういうアンケートを高校生にとっているんです。「自分の人生には明確な意義がある」「自分の人生に満足 of いく意義を見つけた」「自分の人生に意味を与えるのは何か、はっきり分かっている」高校生ですからちょっと難しいですが、これを肯定的に答えた場合は高得点に、否定的に答えた場合は低得点に点数化して順番を並べてみました。

先ほどのアンケート結果、肯定的に答えた子が多い国は左上 1 位、否定的に答えた子が多い国は右下 79 位に並べ替えています。ジャパン何位か見つけたら同じチームの方に教えてあげてください...そうなんです。探さなくてもすぐ見つかります。最下位です。

それは高校生だけではないのか...それでは小中学生が参加する国際的な学力調査「TIMSS 2023」です。こちら中学生の数学と理科の世界の順位の結果を表しています。参加国は 40 数ヶ国なんですが、中学校数学、最新の結果は世界 4 位。中学校理科の最新の結果は世界 3 位。やっぱり優秀ですね。

一方で、我が国の中学生が国際平均を大きく下回っているのはこちら。上グラフが数学です。「数学を使うことが含まれる職業につきたい」赤丸が日本の中学生、白丸が世界の中学生。2011 年、2015 年、2019 年、2023 年。国際平均の半分にも達していないんです。

下グラフは理科。「理科を使うことが含まれる職業につきたい」理科の方がさらにその乖離が大きいことが分かります。ここまで見ていただくと、恐らくお分かりの通り、日本の子どもたちは基礎学力は高いんです。しかし、勉強していることは職業や社会には繋がっていかないって言っていることが分かりますよね。

お待たせしました A さん。今度は中学校 2 年生です。

「あの～、修学旅行の中で学校の勉強が生かされる場面ってありますか。先生が単なる物見遊山にならないようにって言うもので…」と聞かれたらば修学旅行のプロとしてお答えいただければと思います。ではどうぞ。

先ほど皆さんに対話していただいた通り、学校内の学びが修学旅行に繋がらないわけがないんです。しかし、それは教師がそれをちゃんと意図していて、それをちゃんと生徒に理解させていればの話です。それを説明せずに、それを意図せずに偶然できたのでは、やっぱりダメですね。

現行学習指導要領に戻ってまいりました。

人間関係形成と信頼関係づくりが、この修学旅行の大きな意義になっていることが繰り返し出てきます。そうなんです。子どもたちにアンケートを取っても、学校行事で信頼関係が深まったとか、人間関係づくりができたなど、どの行事でも出てきます。特に修学旅行は大きいようです。人間関係、信頼関係の構築の場である。これが修学旅行の 2 つ目の意義です。



高校生の性格評価と言われている、これ使い古されているんですが念のために確認しましょうか。4 ヶ国で比較できます。一番上の黒い帯が日本の高校生の回答です。

「自分には自分らしさがある」3 位。「自分はダメな人間だと思ふことがある」ダントツの 1 位。「自分にはどのような能力・適性があるか知っている」残念ながら 4 位。「今の自分が好きだ」残念ながら最下位。ここまでは日本の高校生の自己肯定感の低さを表したデータとしてよく使われています。

最後の一つは 3 ヶ国でしか比較できませんが、一番上の黒い帯が日本の高校生。「社会は自分の力で変えていくことができると思う」3 番目。社会参画意識の低い日本の高校生の姿を表しています。言い換えれば、“自分で決めるのは怖い。誰かが敷いたレールの上を歩いた方がマシ”と思っている日本の若者の姿が見え隠れしていますよね。

ユニセフは子どもの幸福度について分析をかけています。「身体的な健康度」。5 歳から 14 歳の子どもの死亡率、5 歳から 19 歳の若者の過体重の割合などから分析をかけています。

この分析、2 回行われていて、1 回目は 2018 年コロナ前です。OECD 加盟 38 ヶ国中、身体は健康日本の子たち世界 1 位だったんです。では、コロナ後 2022 年の分析では何位になったかわかりになりますか。同じチームの方と 38 カ国中、身体は健康何位だったかチームでご相談ください。どうぞ。

正解は 1 位。また 1 位なんです。「スキル」。数学・読解力で基礎的習熟度に達している 15 歳の割合と、すぐに友達ができると答えた 15 歳の割合。これ前回調査では 38 ヶ国中 27 位だったんです。では、コロナ後何位になったと思いますか。想像しましょう。どうぞ。

正解は 12 位です。コロナ禍に日本の教育がどれほど頑張ったかという結果ですよ。日本の先生方の成果とも言えます。

では、「精神的な幸福度」。前回調査で 38 ヶ国中 37 位。生活満足度が高い 15 歳の割合と、15 歳から 19 歳の自殺率などから分析しているんです。ではコロナ後、最新の結果何位だったか。こちらも同じチームの方と想像しましょう。どうぞ。

こちら正解は 32 位。スキルと比べるとやっぱり上がっていないんですが、なぜこれ上がらなかったか。若者の自殺率が急激に増えているんですね。

これは日本の児童生徒の自殺の数を表しているんです。令和元年までは 1 年間で 399 人なのですが、この後数値が大きく変わります。令和 2 年 499 人、3 年 473 人、4 年 514 人、5 年 513 人、6 年 529 人。そしてこれはまだ速報値です。確定はしていません。令和 7 年 536 人。

この数年間で、先生方、皆さん御存じのとおり、子どもの数は急激に減っているにもかかわらず、自ら命を絶つ子どもたちの数がこれだけ増えているというのは、我が国の教育にとっては喫緊の課題。無視できない課題です。

これ、ある中学校の生徒が持ってきた資料なんです、「まもなく AI に取って代わられる職業 100」です。そしてこちらが、「それができないであろう可能性の高い職業 100」です。こういったものを中学生でも高校生でも見るんですよ。自分が今なりたい仕事なくなるってわかるんですよ。

そうなんです。教員はなくならないんです。先生方、職業選択間違ってたんですね。因みに高校生に進路のことを考えていますかと聞くと、高校 2 年生の 8 割が考えていると答えます。一方で、その子たちにどんな気持ちになるって聞くと、ただただ不安だって答えるんですよ。



では、A さん出番です。「あの～、修学旅行に関わる仕事の魅力はやりがいとは何ですか。僕は正直、進路や職業に不安があって〇〇さんの率直な意見を聞かせてください。」高校 2 年生の将来への不安です。そうだな～お先真っ暗だなんて言わないでくださいよ。

はい。皆さんありがとうございました。

それでは、たまたま私が学校訪問した際に廊下に貼ってあった修学旅行の感想文をちょっとご紹介したいと思います。

< 中学 3 年生 >

「修学旅行はめっちゃ楽しかったです。TDL、自主研修、レミゼラブル観劇など地元では経験できないことばかりで、一生の思い出となりました。でも、もっと印象に残ったのは添乗員さんの姿です。お辞儀

の角度、丁寧な言葉遣い、早朝から深夜まで笑顔が絶えないことなど忘れることができません。普段から親や先生に言われていることはやっぱり大事なんだと思いました。」

先生がなんで時間を守れ、挨拶をちゃんとしろ、礼儀を大事にしろというのか分かりましたって。意外と中学生って学校の先生と親以外の大人とちゃんと接する機会って少ないんですよね。添乗員さんの姿から自分の将来が見えてきたって。

<高校2年生>

「修学旅行で大失敗しました。バスが混んでいたことは知っていたんですが、一本前のバスに乗る選択肢はありませんでした。計画通りのはずが、結局は大幅に遅れてホテルに着きました。大きな食事会場で僕たち4人だけの夕食は味がしませんでした。一時間も遅れてきた僕たちを笑顔で迎えてくれたホテルのおばさん、食事の準備・片付けだけでなく、「知らない土地で大変でしたね」の優しい言葉は忘れません。

わかりますよね。でもこれ修学旅行の中の失敗でよかったですね。この子たち二度と失敗しないですよ。やっぱり教育の中だから許される失敗ですよ。それを先生たちも、旅館のおばちゃんも、こうやって温かく見守ってくださって。これ修学旅行でなかったらできなかったでしょうね。

ワーキングのまとめの資料では、このような整理もされています。これからの学校教育で特に大事になるのは社会を創っていくこと。自己実現を助けてあげること。人間関係をする。今日の様々なデータの中には、その背景も出てきていましたね。そして、社会創造や人間関係形成をしていく上では、小さな



合意形成のトレーニングがどうしても大事になってくること。そして、自己実現や人間関係形成を促すためには、小さな意思決定のトレーニングが大事になってくることを、次の学習指導要領では明示することになっています。そして学校行事においては、合意形成と意思決定の両方の要素を有していますよと。

是非、生徒たちに決めさせてあげてください。その余地を残した状態で大人が様々な準備をしてあげていただけないでしょうか。

では、もう一度やらせていただきます。Aさんが新入社員、B、Cさんは上席先輩社員です。

新入社員A「修学旅行は日本にしかない学校文化だと聞いています。教員の働き方改革やアレルギー対応等の問題もあって、将来、修学旅行がなくなってしまうということは考えられないでしょうか」さあ、B、C先輩（上司）のみなさん、あなたならどう答えますか。

はい、皆さんありがとうございました。皆さんにやらせっぱなしはいけませんので、私がこの立場であればなんて答えたか。私であれば、おそらくこう答えるだろうと思います。

「学習指導要領には修学旅行の意義や必要性が明確に示されており、かつ日本型教育として定着していることから安易な見直し論は起きません。しかし、その意義に反し、「修学旅行は楽しく遊ばせておけばいい」や「生徒の声を生かして修学旅行を創るなんて無理」「2年前には旅館や新幹線だって確保しなきゃいけないんだから」という理屈が公然と語られるようなら、この行事自体の見直しを求める声が上がっても不思議ではありませんね。」と答えるのではないかと思います。

私に与えられた時間は、あと1分となりました。どうしても最後にやっておかねばならないことがあります。ジャンケンで負けられたBさん、Cさん、本当に申し訳ございませんでした。無茶ぶりの数々をお許しいただければと思います。今後の人間関係がありますからAさん、お礼を言って終わりにしましょうか(笑)。

それでは、皆さんの貴重なお時間を私のようなものが拝借をいたしましてして申し訳ありませんでした。引き続き子どもたちの修学旅行のためにお力をお貸しいただければと思います。ご清聴ありがとうございました。



《質疑応答》

【質疑①】

和歌山県の有田川町立石垣中学校の宮崎と申します。私も来年で終わります。今の先生のお話を私が聞くのではなくて、若い先生方に聞いてもらいたいと思ったんですが、方法はございますか。

【長田】

呼んでいただければ(笑)。





《 第 43 回 全国修学旅行研究大会 》

参加者数：会場参加者 125 名 オンライン参加者 65 名

情報交換会参加者数：51 名

出展情報ブース：11 団体

第 43 回全国修学旅行研究大会

資料展示団体 一覧

(50 音順)

1	アイコニア・ホスピタリティ ホテルグループ
2	公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構
3	沖縄修学旅行 (一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー)
4	鹿児島県
5	劇団四季
6	昭和館
7	公益社団法人 千葉県観光物産協会
8	東京スカイツリー・墨田区観光協会
9	一般社団法人 東北観光推進機構
10	一般社団法人 長崎県観光連盟
11	北海道

第 43 回 全国修学旅行研究大会

[報 告 書]

2026(令和 8)年9月 10 日

発行 公益財団法人 全国修学旅行研究協会

《本部事務局》〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-6-8
九段南ビル 6 階

Tel 03-5275-6651 Fax 03-5275-6653

《名古屋事務局》〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 2-14-19
住友生命名古屋ビル 6 階

Tel・Fax 052-561-7876

《大阪事務局》〒556-0017 大阪市浪速区湊町 1-4-38
近鉄新難波ビル 7 階

Tel 06-6636-0885 Fax 06-6636-0890

URL <https://shugakuryoko.com/>